勝栗毛五編追加 全

十

へ13
3681
11

怪石雷毛無端進不得ゑ
君の家の障子ふ手脚を延しもろの室紅ふ
下ふ宇と陰史綱の書むなしく筆を破を
責つし眉間の額に入ずみ刺刀を受て。
諸長られ髪摺の字繍をとして汚名
まのおおびて幕府をはなれ宮を拝乃皮

門 へ 13
號 3681
卷 11

羽翼を生して、朱波留場を常古人
石用物と指て長物と呼ぶ百邪唯長く
しこそ美なるものハ飛臥寒長くして
奇なるものハ膝雲毛なる通し今既出編
追加成て長袖よく舞人吉市の娘樂
長舌巧に能る言葉の清秘をとらせう。

宝子二子が寄の下の長より出る清秘
の骨にして價良馬の骨なり貴しし。
卿が文さんげしの拶灯とせんをあらそひ。
卿が名法性等へ入れてもなる
長く伝ふ通し

文化丙寅仲夏吉日二

書于芳葉亭

東海道中膝栗毛五編追加

十返舎一九著

川崎音頭に御幣の山田とうたひしは和名抄の陽田といへるより出たるにや。此所十二洲ありて人家九千軒だより。高賈豊をなすべ各貨素の牡蔵渚にして。神那の風俗おのづから備里。貴本和蓮法のゆんぶ余金に異なり。今其の旅人さん曷なく。此高さしにいふだらりなし。御法師を濟

弄多八ハ。のとき方ものくおつれ。此合にいるとも。夜例
あるゞに御師の名を板にかけ。用立而いる着
板牛葦のごとく。こゝに袴をそりひつかけたる侍の人
とおなく就ちがひて。性来弱人の御師にいるを追ふと
見えて。一人の侍御師に来にちがひ。モシあなたがたハ
いづ方へ。おとしでおぎりまきを。御師志れたる。其神宮さ多へ
まれりやまと。御代ハ。其夫ハどれへ。御師志夫ハ。竹本義太夫度
さ。御代ハア義太夫とナまハ。どこまりて志れ多。御師その義をと

いふ事。大坂ニ至ハ乃ち彭城。一京ハ四条。お江戸へふきや
所かしにおゐて。永くしく御師刺にあつかりましたる
御代ハ。ものハおまい方であつたいな。御代ハこゝぬかまとく
ひつぱたくぞ。御代ハ。あごじやなくて。上方なし。ちと休んでいこ
かいな。御代ハ。ちらハきたく御人ぶ。御師の雪落しゆへて用
立ましたれてある。御代ハおきやかがましハしとト。三人ともあるちやをへ
いつ志ぐらくやまむ。
此内向ふより上方ぞうしやちぜい。御代ハ。おぐさまし。
そうひのなりぜまじ里にてえたり上。御代ハ。ぜひ。
御代ハ。ソレひまうくん所をとヤア。しまいきアよいときア。チ
チ二く

まけんぞめ紀ハ阿波坐の鶯ツリヤサ。かゝれくもヤアレかけし
さ紀。ヤアとこさ。ヨウいとみア。あまあまあまあ。コノなんでもせ。
チーン
チーンチンくとく ト 此ひとおれ居るあとうらそく講とうへて廿人斗
ぶれも御師とうむかひの加るふくちのう来るがおしの
手代さ紀
ふとちて 「サアリとく。これじやく。まづごおふさ母も是で此体
そく
にくおあきりませ ト かごいのとうだちや屋のかどにおろまゝ此ぶいぐこうハ
江戸とうへていつれも小そでぐるこふみドかいおあを
きめこ手ゆい。せいくかごを出てざしきに
居る。此内一人のおしを活けらと見つけて 「イヤ これハごふぶ。活けとのく
きさ母も 「さんぐ 「あるかハ ト 大をかけらせて活けらびくかけ見れバ町内の若屋
ちとうへ居り居ぐをとう時は若やのすらひをせざ
えてうこゆるれバ。ゆるゝ
活けら。老子げ かうして 「ハア 老子ゆ 気出さ母か。よくお出かけ

なかさんましこ。老けし夏でおちかこのお国にかつてハめん
ぶくおかん 「十二サく。且しも仲宮の老々清で。そのくせ
清親といふものごうら。接ちかく出かけましこが。よんに
でおけこ。旅へ出ていたこうくづうくにがおかしいおくへ
来て一ぶんやうつし 「ありがこふぎざんまと 「つれハこれぞ
ハヽア まんざら老ら敵でもなかん。ナント きさ母こちこれ
のこうぐ。そこ清おが母ぬか。それも飛入といやアちつと斗。
金が出るうら。至幾ちがらぶ。且しらが供ふちかると。一文も

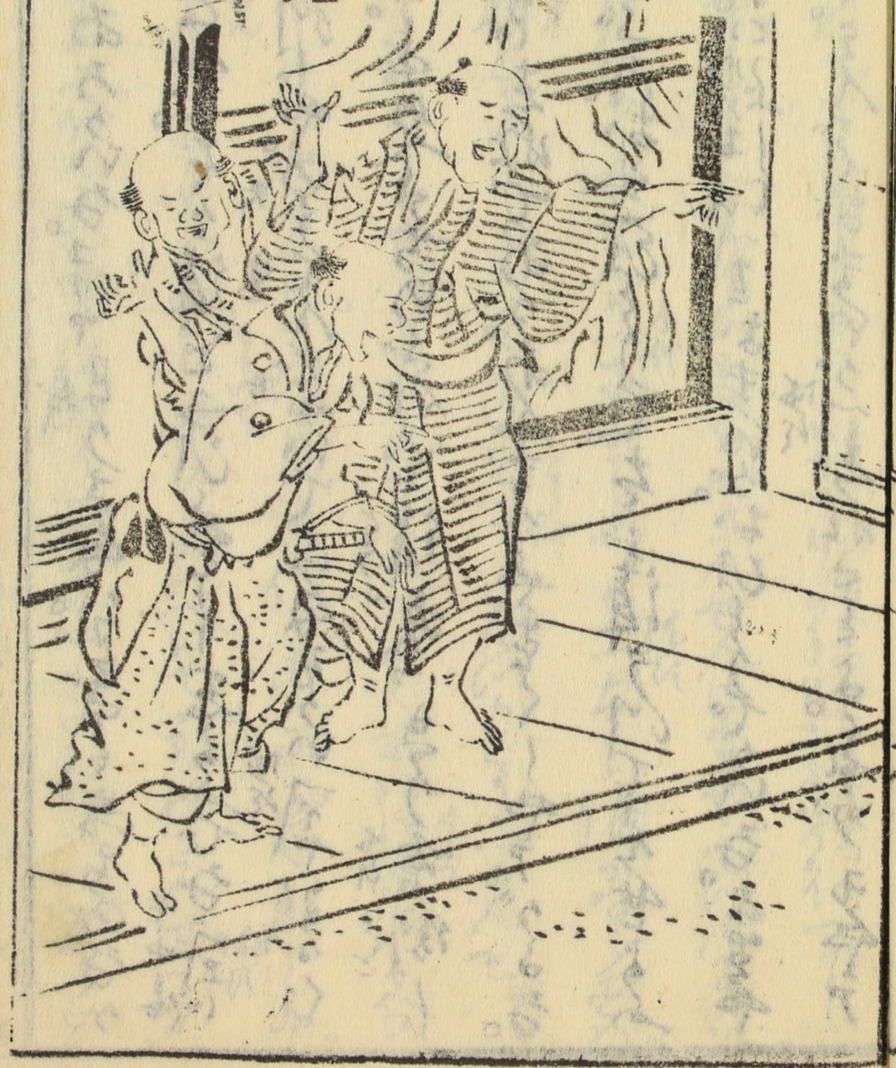
かごにのりていか稱へか「イヤ君んごとをおりしまる」「ハテ
見しハと見てうあるくハおぐさまとぐ。きき毎志ゆれに
のりていかりし「さゆうちゆう。ぺこ〳〵さゆうやきめうく
トかごなのれば。サアおとちじやと。毎分のかごがいちどに紀まかきあげ。こんざ
つして。浦にしらがのうるうごの人そく。君んごまぬけしゆえて。上るぐこの
うごの中へまぎれてこそうるにきも法かぎ。さるきてかいて御く。かくどきくき
まぎれに人もそれとこそうつかぬ。ばんぐしいそ紀御くおどに山田のまん中
をじらいといふ不思て江戸ぐこの一ぐこれ内気のおしなる。ゆへたりのうこへとられ切
上るぐこへ。新気のおし出て。此ところより。右のうこへとられ田丸ゆどうの墨が
きまのうこ。つく門前のきうき同。かりて砂にあるうちきよめ。けん気んにまく
寺まいしてちそうの中へ。まとりたる家に出向へ。そうぢうこるくかごとを
ありて。けん気んよりおこをうこのとき浦にしき気もかごうこのそうにて
上るぐこの中へまぎれてこそこてにきられど十四人てこしもあるかごどれが

ごれゆうまうしおこと浦にしかごと出ておるじくぎしきにおるとう浦二
そこうとうろくゆまれせどもうるゆ。志らぬ。そまどうるゆれ「ハテ
がてんのいかぬ。モシ〳〵茶屋のたゞ〳〵茶さ母ハ。それにお
出おきれまきとそこぞに「おかんぢゆいな。たゞ〳〵さんとれこ
ちや志らんまいな。そしておまいハ。稱からゆんん。ゆ
が。ゆれ惟きん志ゆいな「浦にハイ。ゆうちハ。ソレ。たゞ〳〵さんの。町
内のものぞやが。ハテ。ぞふかちがいこよかな。小ハハ。ぞ也こ
志らんト。むしゆうゆうくきよるくしまどつれあるけば。こなく
さもとぞかし。こがいにそぞどひきこあふてゆもるごうこと也。
さゆ紀あるうち此詩
中の内こん人立向ひて「コレ〳〵こなさんハ。ゆれぬ人じやが。

それじやァなんだね〽ハイ〱〽ハテよろしい。何をきくよろしく
さんをおいなさる。誰じやというのかへ〽イヤまうちやん。冬至に
あたる亥さんがおめでたくござりやすと〽ハテそれはいゝ
人は。こちの結構のうちはなかなかもせねばならぬ。なんじやゆう
きこうのように人じやといふ。〽ハアそうかへ。あなた
がたのおつきでもござりませんがなさいますよ
〽イヤそれはどうしたらよいかおかゝり見ていなんせ。あらい
なげけれどもなかなか〽おいらもあそびになりに出して
やりなんせ。おさけ〽ハイ〱はいりますところがよく
おゆるしなされおまへのこゝで。ごめんも往〽ハアおまへの
すいはいのおもしろきことをよろしくもみのりんまの
さかえ。お江戸のまへ結構しぞ。ひとりでおちつかさがし時
おまへの雪んしくかゝるが。さちこの中へまぎれこんで。ござ
れしこのじやな〽おめでたいさまそんなもつとよろしきのゆく
御師どのいざこそ。おいでなさるとな〽十二おまへのいく所に
それからよろしくな〽めんどうのゆく御師どの。そとへ

石川や
埋の
小川よ
あら
秋
とも
郭都よ

御所も
なりれ
そや
ん蛍
スルカ
足久保
茶丸



いゝてへがあろうかな。コリヤ我ごうりきさんハ。ござへしてちのなら
まへぞうてんで。天々清をいゝぞし喜のふでな〽王ぢく
けさ以字男川じや。天窓のゝんぎんいてちな々うい〽イヤまるく
ちゑかゝア。手ゑへゝちのぶんぐ清丸ッきり絵割し
らんがゝゝでき流であるあんまりやきくしやアがるな。
江戸ッのみぶんおきこひとりで。天々清うけてんせよのふ
トおゝきうきおれがおしの手代をもとつぶして〽十二おまへがおひとりでいな。ちゝや
でけくしゝえんでおまいが〽ちれさをよなかまや

よりめへかれでゝみゑままを〽うちの小二百文々ふつてゐ出せだかりの手代二夜がつゐ〽いくし
ぶつくさう天々清ハやまうて金拾文女も出さんせんけいやでげんない
な〽まま是でハおかりやせんか〽さよしやく〽天々清がするぞへ。
是で。こみくん祥くらでもおめくまゝを〽しがいゝ〽ふきさんせつし
〽イヤへ、あまりけるおかもとしやゝアよかるぶおまへのいくおへ性ふ内きへの
此君えせうハ方文どのしやるのさゝへきの手代があとのちやかじふ。
是ゝうやうえん婦人所ときぐふ。古まいち市のさ記へいて路禄さんせへア
そふゝニリヤおかでへかんふおやら法まうぞがれ中しこちい〽恙うい

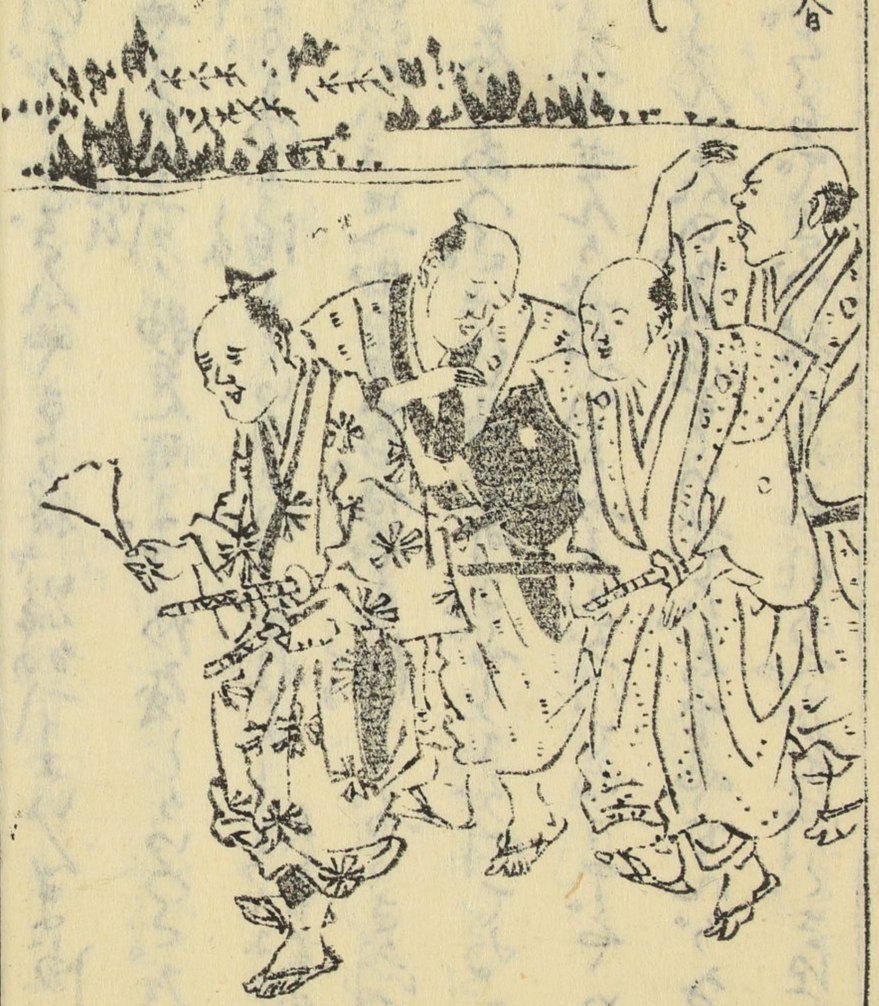
おなぐじやいふくトまとおもらふ浄瑠らまらしてしらせんかさ
なくしあわりくしこの所をさちいづるとて

浄瑠（ちち）　植（うへ）のぶんしとうに　あら稀花

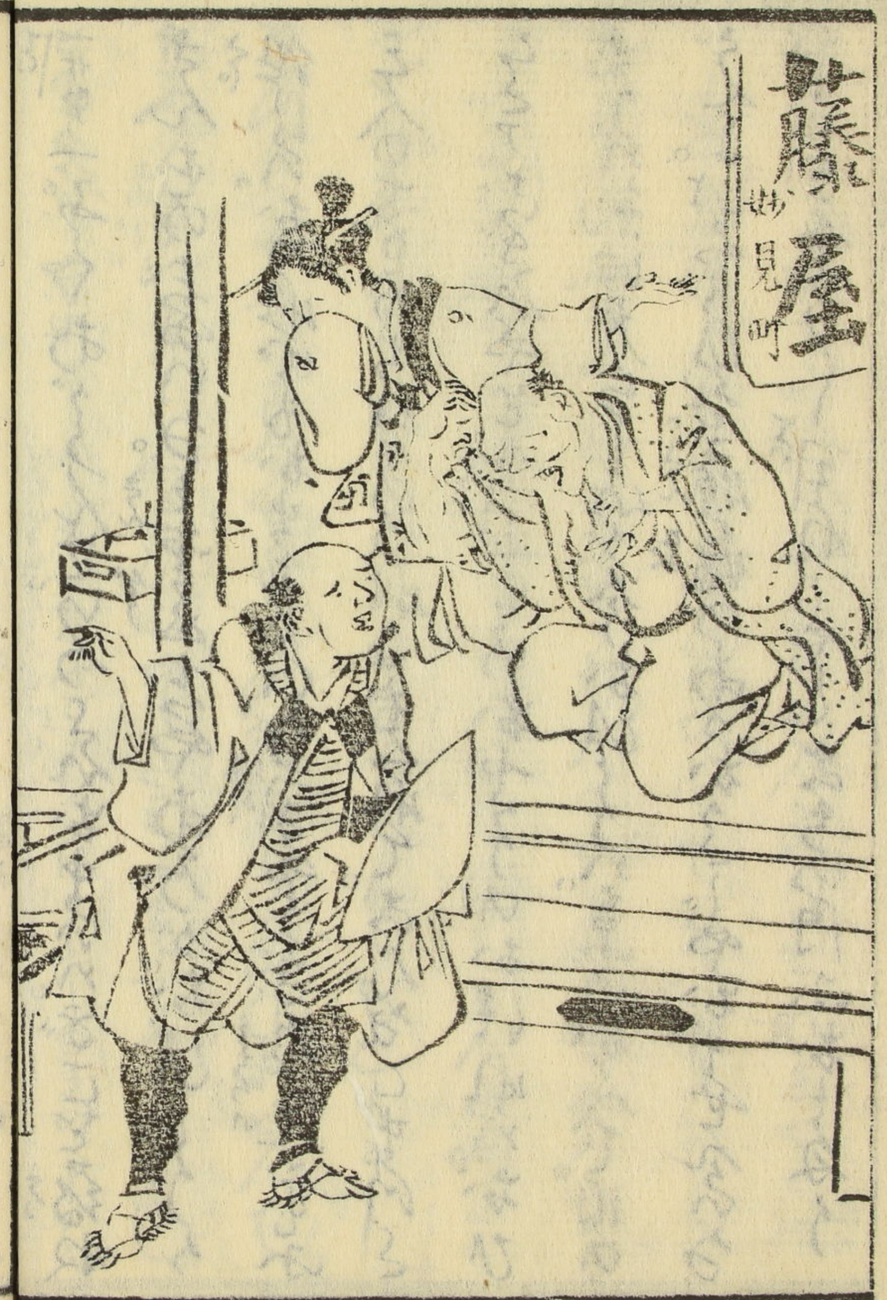
ちうにぶら置しくちかりし　まちがひ

そまより浄瑠ぶ気へ。れの筋（すぢかい）遠に出。妙見町をさし
て行ゐまがら。小八ハいかゞせしや。茶屋たゞ気へとおもひて
御師の方へ行しゝか。供（ぐ）しハ上方ものと。妙見町に浄（ゑ）りしかと。
おもひまびつゞでゞうけ。ゐどに唐山（ひろうぢ）浄（ゑ）にいるとゝ（此所のやうや）モシ
おとなりかいな。やぐをこのてうんせ（浄瑠）コレ妙見町といふハ。

まぐよ所ぞどぐぶんやまう稀（やとやのおんな）へイエいんまゐし
此さんじやこいな（浄瑠）ハツ妙見町にて。何屋とかいつて。屋
づまのよりかものが泊（ゑ）るといつてハアそれよトいろくにかん（久てもぞ茶屋）
（といふと。こまれて　ハテ　口へ出るよのみな。何でも概（さな）りぶらさぶ所て
ゐるよみな名であつて。モシ妙見町にぶらさぶ所てゐる
宿屋（やどや）へごぶんやせんか（ゑ）へ（こ）ぶらさぶ所てゐるやどやハ。
まいらやまらんまんの。そなはしいふてハ。志宮やせんがな
（浄瑠）なるかぐ。そらでこぶ稀てハ志れめへ。りちゝ所とさ迄へ



去年前からあのぶらさがりがうちじやさかい
浮れ「ねヱさん、なんのぶらさがりのじやアござりやせん。
ハテまあいてえこそかんせおこしも富屋だやおそらい
浮れ「ハイさよう。ちがう ト ええしらうちだのかれのうなぐさみおさいんでおりざんないへおきつくす
まごくしておらうちのまあおちて 浮れ「一まことくちとしりのぶらさげいつでござんすが。
去年前をおふて金ちやきうさかあるそでおさむるが
このうちのものぬあせへ きもちくじんで かや見しや前はくてござあいする
浮れ「一まちんちあり。ござでまぶれやをこちらふくびつわ向へ
まつてんどるがはててに称きぬよ掘りとおちさかりくかち
くるで開さうめて死ぶらちがあるがり。どれじや舌い
くいまへ 浮れ「いゝさ舌がア。なんでも掘りてぶらさがりさ
おかまうちであるし ト又三三けんさら入あ死 おうちのうくまで 「モシ掘りて
おかさうちなきめへじやアござりやせんへ ト ぶんごとざを りよはうちの
女房「イエモウたなしがうちへれしか力くゝ 女でへえりく
しちおへあげておいてこんなおかみせんこれへ 浮れ「ハイア私なんへ
おざりやせんか 女房「サア おかまへきちがひじやおそらくは


藤屋
妙見町

あるじにもならうぐらゐはまゐることうちやないよの

くアく　おく八〔隠居〕「これはお世話にあづかりやした　トまぐらにおくつて上るまあくれ入れ。

其で其の君は猿帥について御師匠の方へ行しが、師匠さん〆さんざ鬼まくら
殺人ぞうはまで手すちまくいろくさ会せそもつまらぬぞせんちさほくその
御師匠の旨と申すがはなくもあてたかうてすさそうけん町の、やたらやへつ盃
ふんくのはやてもぜうちのるあれべ大さござ〆てるでありやくさんとこそこの
すそ師は谷うてまちうけしありる弥へられあやくそうのらどかまちがひくるひち
お家ちんかのかうまひよなり八ふぶ八ちかあひとよびふやうひげと
ぞうそうなつきみるが

〔隠居〕「はまあくもらでまくまな別京ちかくてめくらく
イヤもうおさんぐ〆同まあつまうさられおれがるよ時ふがくと
おひきんをのおかでてろちもひらつかやら直てらんる支

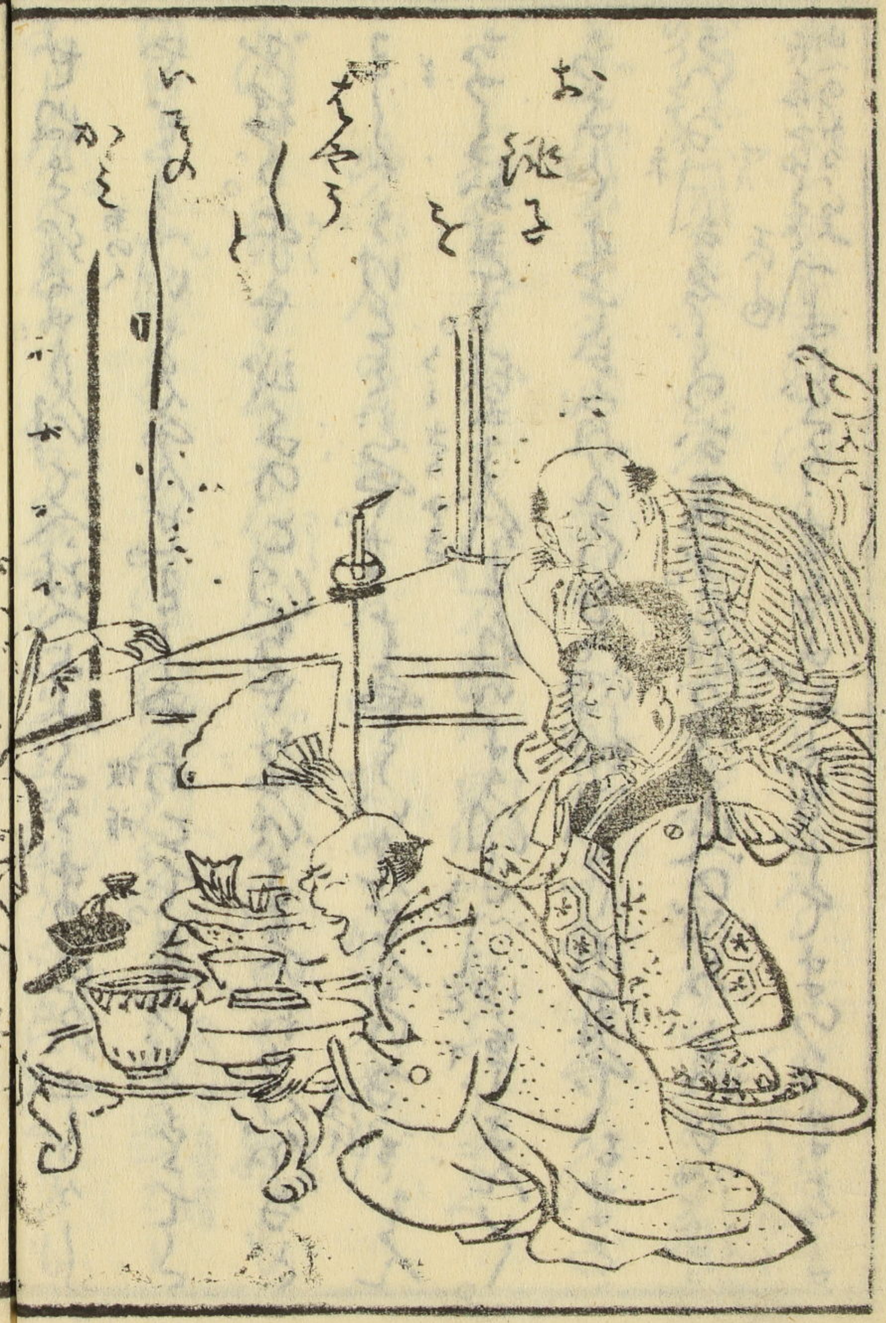
ゆ八「おめへさア湯にはいつてきなせへ〔隠居〕「そんならそろそろ
ト隠居はゆふねにゆく　ゆ八「ひげをそりかかつて　ト鏡に髪結さんおいとまがかうらんし。
顔を猫をはためていゝそんちなさんぐらうちのかうの
髪結さんが出て鬚がおつにちがくそでこんどきのきら安
あくまつ夜ぞ。そして世の髪もどうせ大ふ大きくいけて。
ちかんのまの猫人羅子の湯がふうくいつかのぞ「その為う
おちかぞれさつくらつれきれるでおままよがね「きれ　ゆ八
いつかうつて小僧ままかあかやまあ「イヤおまさの女中も。

おつきなくちをあんして。あんびきんをあれ。縁からいろ
けがさめるがな。それでも。女郎は又江戸のことぞ。名ばれ
いきたりがあるから おすろれ。こゝ内ちのは。堆がいゝ内ちも
おちゝじこしで。神つからふるとりふてが縁人から。信仰
がうまれよりふぐ。イヤ上ちのわうでれ。おまれのよりふる
おかさがいんしてもふらんさらん。それで名いじやおま
せんかいな。まきなおまとやとくいなるつんかんのこゝ
さが。あとのんまとい切まをがな。イヤきうなくても

どうせくにいてくみそうぐ。いれまうぐ。あやしいな。この
かくそうれいつゆう。辨ぐまくがやさらい。うてめうそふな
ちゝぜ。刺るよびぐに。辨の。イヤそちゝれにそぐと。かゝ
そりがなるさらい。ハテ人さんのつむりのいれのは。さちや
三年もとらくるがな。ヨふくとそいとくて。一なづぬく
よりぐ。ちゝんがいれて。こうで。命にさらくるいがな
。そうやあれとるよ。りかく さかれれ。いてがけんは
してくんな。おまいさうぐ。おきうれ。ひかな。手刺分

で。造判(さうざう)にやられてあたまの。あたまの皮(かは)がむける
ざうさ。わしもまたいゝし。がんく鬢をつめていつてゐる
〽ハイくコリヤあつくてふけじや。このふけのおやすまいがおまをそ
ぐゞ〽どうだまてしてあるなあ〽ごうんさまはおなうんさとしなるは
がぐ〽男ていめへすいゝまなうへ〽鬢のこみいでよふおまきなさい
〽すくちとひつはめてくんなきつくこなちのはうへ
なるく。髪のなをさくなまぞ。根をかうすぐつめていよさいつと
さう鬢人まいにがうるまあ〽まあよなかつ。これだからおなでなまさ

ト はかゝ娘のこれみてるしいあだぐ〳〵鬢とつかるとさう手早に三ッ四ッと
かうゞすまきて因からへのきをへひまうるそうひまさく引つはりつきゝ少八
がこのけがぬうくさくてなれはまけ
とくとこうそうあるとまうふかくし〽これでよし〳〵。ていふもちぐ
鬢〽ナントそれで。よござりまするかなあ〽あんまりよふござんして
らびがまるくぬよふなる ト此時ゆすりゆふよう あんうなさとさむい〽サアおあつさ
新参ちつされませんかな〽ヤごふんな湯に入らぞく〳〵
して風でもひいてはよくないぞ。己ちへてア あつくるのよふしや
せう〽さよちつうはきげんよふ ト出ていは〳〵ち。此のやかで めいく冷をとまよ方あれ光新
まう。鬢とうびやう〽内に服をとうね〽今日はまけそでお前さる看が



尾陽
立雅亭

京 ぎうしやろう。ち そくてい
「アノ牛車様か手牛車ぢに。まよじやないかいな」
このなとゆへ。何屋にありやさ「こんしじやおすせん
つごこ
鞍のるのるかいな。ソリヤ ちつう 手牛やでおまきとがな」京 「そのち
つうやがよござりまきよ ト こるく きろうちやゆ日あれて
附かハよしとていしもをあんないとして
三人しも出うけれどよ此妙子所のうへいさぐに古手にて倡家 軟となしべ
ひれとうるいせあんどの三こせんいさ家しくうれくてちつうやしいるにふこれハ
甘さるくせしまく出 「よみぢぎんしこ。きくにお二階へ おぢやの 「おつれ中
てもよいかいな。サヤ 山安青いてしまきよ ト こいしもをさうれよ
おのしこういへり
こ雇ふ 京 「ことに沙汰きん。そうきよじやないかいな。おまいかさ

とお。江戸でゑらんおいきなる店の。だんとうも 蒙取ふ者よじや
おかれかいな。かぢや 「そうないなとがよござりまきよ」京 「きかし
なま
作ろんしていあんこいの。かこ居しいふりんじやさい。
きすぢん
京 法でゆうんせにや。ぐあい 工合がこうかろが。そふじゆいな
沙汰 「そんちゆうるへ。もうてこれで。きろぞうと。ころちがかこ
がうでゆうしやしゆう。コルしおなぞきゆく。ちよしきて
おかれんかいの。こしやちゆんぎやあしう。ころとりふんや。ゑ
らふ 咽がかうくさかい。ちゆひしう。りてまでおかれんか

女 ハイ〳〵 ナント系続。思ふいかく。てちくしやうめが〳〵や
きまとんりんじや。でけるくト 此内女郎さうなとりちぶまてめる
少ぢや そだめてうなぐふまれさとこ
系の人 引うけて 〳〵こゝお仲居お母さんハぞふじやいな。コノおかゝハな。
お江戸の思ふいお店のだんとうさんじやさかい。なんじや
あろしお母さんとありさけ出さんせ。お気にいると。百
日も二百日も御遠慮でおかゝの入るハ祝からたから
さんしおかゝひちかんおかさじや 〳〵さまじやといな。私が
去年。お思ひ人さんじさ時。お二店のまんとをすましたが。

おかゝかじ思ふハ出火家じや。おかゝこの御手を死ちまする
かうハ最勢に居しまましたが。これもおかゝさるお見
世でおまさとらいの 〳〵十二才 拙刀ゑらんハ見世でハない
これの。冒にがあつと三拾二冒あ川て私の教が二
百三十三冒二千三人ぐらしおぬさらい。思ふハ祝かる
ことハ 〳〵系のお店ハてしまこの家教誰やまちで
あ川さ 〳〵サイノとてしがてさんかさんハさぞやあんじて
ゐさんをじやあろに。こちにゐるお母さうり堂にて。こう

やうなしんぞなも百なもいるものの人。何でもかうしたはう
ゑんにおまぶさうづきとさしておいて（トロ　ゆれ、あぐらにてゐ、かうのぎしきになるとしおぐに）
さうづきとさしてあいうことさざむれ先。このへんゆてゐさゆうのゐれなく。さだないく
ゆてちや屋の女がう。あるひは女などにさゆれて。おかれられこれれとわしあいうこと
きれめておくゆへ。東の人がんとくなるのへとうりて。此中ゆていろち。とあうものと。
じぶんのお方とさざめのこうと。法行ふきさんしくおのれがさゆきしてきれめて
おきしゆへ。法行ふれそのことをいつこう。あうぎ。あぐらのかくゆし。さうづきとさしふる
お出家と。日がお方とおかひかうしゆへさてこそこのいきくきおこうとう。なかね
法行ふを。なぎめて。これいし。アノお出家さんはな。此人さんのおうな。おまかい
さんはこちの（しなさうげ）傳田醤さんしやまいな。法行だうアいかな。此中で
アノお出家が同に法いたらそれでおれが。屋をとさしたふ
ちがはないをこで日しがお出家かいな。ハテ（来）ほるいがてんや
まいの。おなさんハアノ江戸はどこじやいな。法行ゑ。ゑどの神田の
八丁堀。そちらんやの法行ふ。ゑ出さ家といつちやア。ちく
ひ孫くはさ（まこ）奥さ家ぶア。（来）そのお屋どの神田八丁だう。そち
らんやの法行ふ。ゑ出どのようふひ孫くはさゆはとゑが。京
都手本屋。中ゑうひとかれと上れ。ゑ。ゑ。ゑや与古九ら
がおいうこのお出家。牧力。別古市ちはうやの。法行ゑ。何をぬう
ゑやアがる。ゑんぐりやの与古九らもあきれらア。（来）れせこな

かくて座も更けゆくまゝに。たくの宮の川を見。おんども
おの川より聞こゆ。旅客のゆきゝの声。さゞ波の音
もまた。ちひびきて。鐘の声。万戸まくらを並べ。座も志らく
のをる。あり家の障子にかげうつりて見ると
あまりおやじの人へ仲がよくいふじやないか。おききなんせ。かふ
帰いのいはいか。いつ逢ふ日がおさアなくて。絶へか ト あく迄語りかけ
まゝのおまへやいく。縁しもひとく様のりの子からじ。これいじ
ゆかもねきなんせ。君からも絶へ久るく ト云ふくまくらして かけるお手をとも
おかみてらぎゝ人の出二人のお客へ。これいしく。アレ見さんせ座敷の
呼んだのはどうかおかのさとのお紀へ
ねぶいりとがあつて来るといなア。絶へのおいのいてかんせ。
わんはいやいな。誰がおいかへいアといへばおかしい親家の
ねじやア絶へふんどしうけの私もめうじ。浮ひきん
おめへのじやア絶へ。おまへそれいし。おのさんのまへし
ぢやないかな ト 浮かれぶりまでて きかんせ
さぶりのさ。おく。おまへがら。さあこれといへどへいきふて。いつそ行くも絶へ。あんなきます人
ふんどしをきておいらがきるものうへ。そうじやてな。ゆふ屋

ほしや。このおきゆくさんの。きうものを。ぬがまして。なァ
よふ合ひさが。あるいなら他の。まいしぢやあつさはいな。
そふぢやあるぞい。（浮沈）ぢかァいほ門せへ。おしらァ本縁ふん
ごしいきらひぐいいでも。羽二重を。しめてゐる。（たろえ）ヲホ
うそやの。あれじゃいし。（ゆハ）いかさま。おいらも見おぼへがある。
さしかに。あれぞろう。それが。（うそ）嘘なら。浮沈さん。おめへ今
はぞこうに。東門てゐるせちゆせへ。（けさ）今朝ア宿へのやうとさまで。
ふ門てゐるにちげ。（たろえ）ヲ。そふぢやいし。ヲホ。とれいし。

久まとけぞん。そのまいしいおきゆくさんのぢや。（取）してくぐんせ
ト。おいにそうぢしてゐる男をよひかけ。さしづまると。此男仕ぞうきの
さ。ほにて。かのふんどしをつ門かけてとう。ぢんじのまへてぐ門とさいぞ。（さあら）
べ。ふんどしをまいらそふ。ソレさらんせ。ぞふじゃいな。（たろえ）ヲ。くさ
（ゆハ）かし。浮沈さん。まと。ぢしちゆせへ。（浮沈）ヲ。なさけないことをいふ
おれがのぢやア。（ゆハ）そんなしらおめへのとまらいて
ゐるせちゆせへ。ト。浮沈しがおびをこ。ほにかれいかり。（こまく）ヲホ。しいワいしく。ト。大笑して
おかり。ゆるこんしも。（浮沈）ヲ。いめまし。ゆハ。めがおれに。赤（あかもぢ）。ぬ。
はあをこ。ゆるとも。
ぢやアがいさ。（ゆハ）ねふ。ふんどしのぶらさがつても。ゆるぐしい

ふんどしをまきれてうへる 渉(あさま)習(ざけ)嶽

曽金ゝ氣を ふる 市の所(まち)

かくて。妙見所にまうしまうふ。まうしは堂(そら)のまうしき。

いく其(のどう)宇なれば。いまだ内(うちく)外のこやめぐりせだやと。

まゝ食あらまし。にしてまゝ出るに。むかしなく今庭(だ)り

右帝のあがりくちよ。もや見せいとして。めいく小屋に。

引ゝろるいにしつのお枝おゝ氣が。おもかけをうけせし

女の二よりて[illegible]ベンベラく チャンラン

ト むせうに引ゝろる うゝのしかりがい

伊もまうらぞ。性基の旅人は女のうかは 渉(あさ)れ

ぜまとなけつゝるとぞれくふ旅をとゝ

あつちらの志んぞうが

恵くぼへぶ川つけてやろう ト 渉(あさ)テそくなげるとちまくとよけてあてまを ベンベラく 和八

おまが。あてゝ見せまう。ハア これは志ろう 糸 なんとして。おせい

がさが。ぞなんなりつけさんしても。てきらがさまもん

ぞやないのこんどハ見ちゝせへ ハア これはいな 和八 ヨヤく

さしくるゝやうにさるを。それでもあらぬ。コリヤ志ゝかがある。

あんまりつらがふくれ ト ちいさなんころをひろひてなげつくるとかの女がちまでおよれしうけなげうへせん 渉(あさ)れ

のうちへ ぴつまり 渉(あさ)れ アイタ こと 和八 いとしこいつは大きらひぞ 渉(あさ)れ アいてへく

こんどめにあれの山しやうちつけし
石うへしゝ敷るぞおかしき
かくて夏を打ち紀。中の地(ぢぞうまち)所にいたる。たりのうたに
本(ほん)拓(せい)寺(じ)といふ。鶴(ふうれい)系の地あり。まさ(さむ)ぐ風(かぜ)にいへる。
不もあり。又(ごち)忘の此来。中(ゆ)河系。さ夜ぐ志るさとに遥(いとま)
ちゝし。丈より外宮坂なまかれば。世を合(ころじき)志けたひ
かざりたるが。注来に鉢をとふ。又十一三の女子ども。
紙にてたりたる笠(うさ)のいろとれるとかぶりて「やてうんせ
おゑごきんじやちゝんかいな。さ紀子傳さん。たる色さん。
(斑)わかぶりさんやてうんせ。おうらんせ「(沙汀)やうましい。つくなく
とはき門いとんをとらいな。おゑごさんおや。ちゝくぶんせ(かハ)
ひつたるなゝ。ゝまくぞ〳〵ト(よいうげんまだしくしぜふとわらう
おせばとうじきじもあいしひろひて)
よふくぞんしきや ト(ひとりゝ乳をのふこのさ紀は又七八歩だうりのお
をの子。回さまちまゝ紀をそそぞなしだおうふ
まちつけなどをまたしたるがまゝ此さんまゝいあふぎなどを「ヤレ」あれ〳〵。
もちおどりしろふおもがさきさる男さこらをまり〳〵
いまだ川。ふれやゝちたやふる。神のおゑのあき清め。まるや
さらの世いさう〳〵。ゑれきしさ。ゝてんちうじや。たり

ひちじや。夜てうんせ〳〵（ゆハ）ソリヤやてうんまぞ。まうもぼりん
鎌ざ（太蒼）四文ぜになら。清りをこ文くざんせ（浦江）といふむしの
いとをいふ。時にこの撫（すし）ひうぢをしといふのう（京）さまじや。
アレ見きんせ。網（あこ）でせにをよふうけてじや（ゆハ）ドレ〳〵（トをしの上ようのぞ）
きこれば。竹のさきにあこをつけて（京）浦江さん。小せんがあらば。ちくと
まさよ人のなげせんをうけこめる
かさんせ（ト浦江しがぜにをうけさうくと）（京）悪ろふおかしろいな。
おうなげかゞ下にいこなうけこめる
よかうけくさる。もちつとかつてこ夜そうい。コレきこ八さん。
おさんもちしかさんせ。ソレ又あるぞ〳〵ゞしし悪らいく

浦江（ゆハ）コレ京のお人。おめへ人の、せにぞうりこつてなげる。ちと
おめへの鎌をもちなげなせへ（京）トいいなる。おまいがこの鎌じや
てこ。ほしがぜにじやてこ。ぬれてやせんこいの（浦江）それぞこうつて。
あんまりあこじけ程へ（京）ナニヨしが時まい。くまえしこと
こな。きうんせ。悪ろんあちじやあつこいな。こゝで鎌ゑ
ゆ。稽ゑあつこいのあんまりつらのにくんなじ。ようけおる
きうい。何じやろこんぞい網（あこ）やおつてこまそこ。ふこうろこ
丁銀（てうぎん）が一まいあつこをゆイしまつてこ夜しこう。ゆつぞう網

おころさのじやあろ。そのほうでくまろうかあいらぬ。お
しへておとしさが。そやきやきこうのてでいちろうさいの
ハイさゆうでおぢうまゆまる。血のこちいてての関係のことで
まぢうませう。この男いそれでいござりませ夜ハさよぢや。
コリヤましがまちがいぢやこいの。まかし。ちかんなるまさ夜
も。それよしておかんまとくせまかるにもいろまるにして。
めんじふよなふてよいがな ハおるかど。コリヤおいしやさ夜の
おつ来ることをう。孫ハきん。あんくも血のろにしておくが

いく孫ハとんごことをいふ。男にちの及があいてくまるかのか
ハイヤくかの病気もおかしろうろ。何もしらがけいこの
さめじや。いろさいまさ夜ハ。何病ひじやハまさくしいい
先刻ろ。むしがかぶいてちかりませ夜ハ大きさつりや後の
うちでかぶるじやあろハイおいまゆるこそう。後のそと
でいござりませ夜ハこふじやあろ。コレく女中。彼のかのに
くまりだとおこせといふてくだんせハイくかしこまり
ましさ。イヤかし。おともの人ハ見へませんこいなハ見へん

いしや「せんじやう様のごとし。せうがへひとつくきおいれなさい

小八「コレさびでハさむくてどうもすまねへ「だらアいかねへと顔の

あたりをなでまはすを ト法内なぶ申しうてあるごぶなをまなぶしく人のおしおとこえんくひできるしもの

とて「コリヤくおちなべやいく。こう あげだひとのへ人と申され

たし人仲ハ中ちよう世。なをやめハあきらうさやうく ト [illegible]

うち。ころ[illegible]又法印が[illegible]しまして「アイメし 小八「法印さんでふしらく

いしや「コリヤ らこまうくへ。病人のそばで[illegible]おられぬ ト[illegible]

ろそのふ[illegible]やレころあげだあさまのお生と下女のお[illegible]がらうそんで。だであの手とえ。[illegible]くと法印[illegible]ところへ

つれそくろしく 「これハまくり゛様てるさんしてあなたさんらいの

サアく おさきさんせく ト 法印[illegible]をひきづり[illegible]て「アイタと 「去ん

おちさんせゴレ [illegible]二人[illegible]「アイタく「そこ

まやく ト[illegible]月[illegible]法印[illegible]「サアく

ころなまさんせんらいなゴレく こて[illegible]それで[illegible]そこいて

らぶんせ。さあく [illegible] ト[illegible]さんハ[illegible]

[illegible]法印「コリヤ小八[illegible]いて「[illegible]

ぎのよいハ[illegible]なうさんらいなぐれしいけませんせく

「ぞでいけんでさまるりのうち。ちゃ傳へりて人。ちゃ子しさく
「こうろへいてれちゃうんさいの「これでも。ぞでいけむと。
ぞへ出る「出るうち。いけまんせしいふのじやさいの。ゑしウこ
ゆしゝく。そやそやこそ。かふあら夏が出うけさく「アイキ
そやまや。子でれ稼へ。それをそんなふ。ひつぢう。ちゃんな。コレ
いてゝく トめがとうみさぎだいぢつと「アラ」はだぐあめ トよこう
ちりとだまで「この血ちがひハトむしやがうつくがるさいぎのさいちう
だぐあきまで「うてのうさあれまや女ぞうのあんざんと
入へてあうまの「おぎやアくゝゝ「そやこそ生れさ。イヤ

てじやなんぞこじゆいなくしうろさへまのうち。孫ぞう
もしまてむさいもハ「コレくだあさ夏。さうきふうらさづ稼て
かくてようさんでまり
おるふ。かふ生れささいの。ちやうく トだぐとひつまてつれ行ば
うてのうさあれぞんさあさん
「めでさんく。三重一の重のよふな。おとこの子が生れさト
よろこびのこへもあ「コレハ おきふしさ夏。おやうまあうぢさう
さいしのおこしてまし
まぜう。生んさこしまも安産のさしましさ トいふうち
ちうちん「さてくおめでさい。こしも今。せうちんで。おもいれ
よろ出
あんざんしさうが。こまれさよふな。ぬよくなりましさ